

幼稚園と家庭

倉橋惣三

「幼稚園と家庭との關係は、どう考へるべきこととせうか。いまさらのやうなお尋ねで恐れ入りますが」

「いまさらとおつしやるが、いつでも大切なことですね。その關係がよくついているないと、兩方ほんどうの役目がつくせませんから」

「そのお話をどうぞ」

「まづ第一に互によく、その教育的性質を理解しあつてゐることですね。家庭からは幼稚園保育といふものを、幼稚園からは家庭教育といふものを」

「幼稚園は家庭に代つて子どもを保育して下さるのではありませんか」

「いゝえ、いゝえ、家庭に代るものではありません。家庭に代れるものがあるにせうか。但、家庭が特別の事情にある時は随分立ち入つたところまでお手傳ひもいたしま

せうが、それでも矢張り、手傳ひは手傳ひです。家庭の責任を奪ふものではありません」

「お奢ひになるなんて誰れも思ひませんが、大層行届いてお世話になりますので」

「幼稚園の方では、いくらでもお世話したいのですが、また、必要があればそういふ譯になりますが、そのため、假りにも母の責任が軽減するといふ風に考へられたら大間違ひです。母が忙しく工場に働いて、家にゐる時間が極く少ないといふやうな場合でも、母の責任感に變りはありません。まして、」

「よく分りました。それから、幼稚園に對する家庭の理解と申しますと」

「それは、幼稚園が一體どういふ目的で、どういふ計畫で、どういふ實際で、毎日の保育をしてゐるかといふことです。それ

この頃の朝夕に

天高く馬肥ゆるの好季節です。この戦時下、病氣に罹つてしまつては困ります。何を措いても御子さんの積極的健康に意を用ひねばなりません。このよい時節に外氣と日光とは何よりの強壯劑であることも今更申すまでもない事です。が扱つて御子さんを外で遊ばせておいて、いつも健康を保つ爲には、かなりの細かい心遣が必要です。日中の暖かい中は充分に、十二分に外氣を吸はせ日光に當てることは言はずもがなですが、勢に乗じて、日没後もそのまゝ外で遊ばせておきます時には、どうかすると風邪をひくことになり易いものです。夕方の四時前後になりましたら、上に一枚軽いものを羽織るとか、今まで裸足であつたものに靴下を穿かせるとかし、日没後は必ず、家の中に入れるやうにするとか心掛けますと、健康が保てるやうです。直射日光下にある時と、日蔭に居る時との關係、或は朝と日中との關係もこんな調子で、強い

も、本に書いてあるやうな理論でなくて、我子の通つてゐる幼稚園の日々の實際に就てとす。これは案外、家庭によく理解せられてゐないものです。

「幼稚園と家庭とどういふところに大きなちがひがございますのでせうか」

「それはいろ／＼に言へますがね、先づ第一にはつきりしてゐる點は、家庭ではその子ひとりな教育し、幼稚園では、大勢の中で教育してゐることです」

「それがどういふことになりませうか」

「わが子ひとりを見つめるところに、家庭教育のいゝところがあるので、だからこそ、あんな強い深い濃い愛の教育も出来るのです。しかしまた、そのために、その子を見そこなつたり狭く閉ぢこめたりしますね。あんまり一點だけ見つめると、よく見えなくなるのが一般です。そこへいくと、幼稚園は、すべての子どもを、他の子ども達との比較において、はつきり見ることが出来る、また、他の子どもとの關係の中に充分發展させることが出来ます。いつも獨りで母に抱きすくめられてゐるのでは發展出来ませぬ」

「いろ／＼教へても頂けませんし」

「それは大したことでありません。いろ／＼のごことで生活の發展に機會を興へるといつた方がよろしいので」

「先生方が、子どもの扱ひにお上手であらうしやいますし」

「さよう。下手では大切な役がとまりませぬね。しかし、それも子どもひとり／＼をといふよりは、子ども達の扱ひにといつて頂きたいですね。つまり、ひとり／＼の子どもが充分發展出来るやうに、多勢の動きを指導したり誘導したりするのですね。中々むづかしい」

「随分お躰けにもなりますね」

「そうそ、それが大切な問題でした。大勢の中では、家庭より却て躰けやすいのですよ。それに、我子を抱きしめてゐると、お母さんも手なしになりますからねへへ、」

「ホ、ホ、ほん／＼に」

「幼児の母」の廢刊に就て

「幼児の母」は十月號を最後に廢刊致すことになりました。就きましては、十月號以後の前納誌代は近日、爲替を以つて御返し致します。

日本幼稚園協會事務係り

光線にあたつてゐる時は、十月中位ではほん／＼と眞夏と略々同じ位の薄いものでもいゝのですが、一寸日蔭には入り、體に受けてゐた日光の暖か味が冷めてゆくに從つて冷えが身體中にまわり遂に風邪にかゝるといふことにもなりますから早朝とか、日蔭に居ります時にはやはり薄いものを羽織らせ度いものです。

それで保母の側からお母様方へのお願ですが、きせかへの便利な、一番上に一寸羽織らせてあげられるやうな手輕なものな、これから冬になるまでの間、御子様のお辨當のバスケットの中へでも、又は保母の机の上にも置いて頂き度いものです。すつと寒くなつて眞冬になり寒さも厳しくなれば、着物の厚さも又すつと厚くなり、日光の強さも弱くなるものですからさほどの細かい厚薄の差もなくりますが、十月、十一月位はどうか薄いもの(長袖の上だつたら袖無しでも可。短袖の上にてしたら長袖のものなといふ工合に)を御子様さんと共にあらせていただき度いです。